

角田市議会議員 黒須とおる 後援会だより かわら版

平成 28 年 12 月 25 日 黒須貫後援会事務局 Tel.0224-62-0241 後援会内部討議資料

〈地方創生推進事業について 平成 28 年 9 月議会 一般質問〉

議員▼今定例会に地方創生推進事業（仮称）「Challenge Million 2016」が提案されました。事業内容に「地域資源を活かした付加価値の高い商品開発」とありますが、この実現には農業の振興、生産性の拡大が欠かせません。角田の特産品「こめ・まめ・うめ」について、いかに付加価値を高め生産を拡大し、生産者のサポートをしていくのか伺います。

市長▼生産から販売までの仕組みがブランドづくりの基盤です。農家などの生産物の販売を担い、消費者との接点となり声を聞き、商品に反映させるという、ブランドづくりに大切なマーケットインによる商品づくりの仕組みが「道の駅」で可能になると思います。販売拠点をしっかりと構築し、そこに結集し、ある程度の規模を確保しながら市場に挑戦していく、新しい角田の農業の姿が見えてくると思います。生産者を増やすためにできるだけ助成、支援をしていけるよう検討します。特産品を使用した加工品についても検討します。道の駅の開業に間に合うよう、他の産地との競争に負けないよう、いち早く取り組む必要があります。

議員▼新たな特産品開発も必要です。適切な情報提供、技術指導、環境整備、組織化、販路確保など、しっかりとした生産者支援体制を構築することが不可欠と考えますが、いかがですか。

市長▼これまで以上に市、JA みやぎ仙南、農業改良普及センターなど関係する組織や機関が積極的に支援する体制となって、生産者の意欲向上や稼げる経営に結びつくようフォローしてまいります。農業について国、県、角田市とも方針は明確になってきており、米中心から園芸への転換、和牛の振興、農地の集約化、大規模化へかじを取っていきたいと思っています。

議員▼推進事業の内容に「道の駅」と連携した事業展開を図るため既存のスポーツ施設等の整備」とあります。子育て世代の女性から室内の遊び場の要望が多くあります。親子遊び場所整備が、子育て支援、市内外の交流人口拡大にもつながると思いますが、考えを伺います。

市長▼推進事業の協議会を設置し、今年度はスポーツ施設等利用者へのニーズ調査・分析業務を行う予定で、その結果を踏まえて検討します。総合体育館やスポーツ交流館開放日をもうけてフリー利用にする、交通公園への遊具設置など、既存施設の有効活用なども検討してまいります。

議員▼角田衛生センターは今年度でごみ焼却施設の使用が終了します。中央公園エリアに隣接しており道の駅などの整備も進むことから早期の解体が望まれますが、角田衛生センターの今後について、仙南地域広域行政事務組合理事であります市長に伺います。

市長▼他の複数施設の解体計画が重なり、多額の費用がかかることから、今すぐ解体することは難しい状況にあります。

〈賑わいの交流拠点施設整備事業の進捗について 平成 28 年 12 月議会 一般質問〉

議員▼計画がスタートする前の検討委員会やワークショップの成果はどのように反映されていますか。

市長▼昨年度の見直しで一部規模縮小や削減してはいますが、意見やアイデアの多くを実施計画に反映しております。ワークショップの参加者には報告書をお配りし、諸計画は広報やホームページ

でお知らせしています。

議員▼現在の進捗状況を伺います。

市長▼地権者との事前相談、関係機関との事前相談、テナント出店希望者及び農産物等出荷希望者の説明会、コンビニ出店希望事業者の募集、市民向けの研修会、基本計画業務など行っています。テナントは2店内定し1店協議中です。出荷申し込み者は96人。コンビニ店は開業まで間があり判断時期でないとの理由で申し込みが無く、引き続き誘致を図ります。整備用地の取得は年度内に契約予定で、建築及び造成工事の基本設計を1月にはとりまとめ、実施計画に入る考えです。

議員▼農産物等出荷者への支援策について伺います。

市長▼今年度は説明と意見交換を行って、出荷者組織の構成及び出荷販売品の取り扱い基準等の骨子を固めます。研修会も行っていきます。次年度は出荷者の確保と育成を図る支援をします。売れる農産物や栽培技術等講習会、種子や堆肥購入及び土壌分析費用助成などを行い生産技術の向上や生産量の確保を図ります。実際の販売を通じた研修も行います。意欲ある生産者に対しては支援拡大を検討します。

議員▼支配人選定について伺います。

市長▼全国に公募し7人応募があり、選考を行い2人を採用決定しました。1人は1月から業務に従事し、設計、出荷者とりまとめ、管理運営団体の事業計画等に着手し事業進捗を図ります。1人は情報発信業務、集客イベントなど企画業務経験があり、必要であることから4月から採用したい考えです。

議員▼検討委員会の進め方について伺います。

市長▼検討委員会は広い意見を求めるため25人で構成します。さらに細かな検討、調整のため10人で構成する調査部会を設置しています。調査部会が基本的なことを検討していくこととなります。

議員▼市民参加型のテーマごとワークショップ、イベントの開催をしてはいかがでしょうか。

市長▼提案のとおりだと思っております。

議員▼多くの市民に関わっていただくためにも出資を募ってはどうか。

市長▼市民の資本参加については前向きに検討したいと考えます。

議員▼「情報発信ネットワークの起点としての道の駅」を提案します。仙南の道の駅が連携し情報を発信・共有することで、仙南広域をひとつの観光エリアとしてPRできるとともに、地域の特性も際立たせられると考えますがいかがですか。

市長▼同感です。仙南4市9町でDMO（観光地域づくり会社）をつくる流れになっています。

議員▼運営会社の形態について伺います。

市長▼第3セクター方式の株式会社を平成30年10月ころ設立予定です。組織体制は実施計画を基にさらに柔軟に検討します。出荷者で出荷者協議会を組織し、管理運営会社と一体となった事業推進を図ります。